

日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRsj

PUBLIC RELATIONS
SOCIETY OF JAPAN

NEWS

2019 年 6 月号

NO. 308

TOPICS

人生で大切な事の半分は、マガジン＝雑誌から学んだ。

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 副理事長 大石哲也

MESSAGE P3

第8回「通常総会」・「懇親パーティ」を開催しました

REPORT P5

PR業実態調査ニュースリリースを配信しました

ATTENTION P7

「広報・PRスキルアップ実践講座」第1回を開講

ATTENTION P8

夏の「PRプランナー1次試験対策講座」を開講

ATTENTION P9

第25回「PRプランナー資格認定検定試験」1次試験受験申込受付中！

ATTENTION P10

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号 六本木ヒルズノースタワー5F

電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <https://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F

電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人:畔柳 一典

6月号 目次

6月～7月のスケジュール		— 1
MESSAGE(メッセージ)	人生で大切な事の半分は、マガジン＝雑誌から学んだ。	— 3
REPORT(総会情報)	第8回「通常総会」・「懇親パーティ」を開催しました	— 5
ATTENTION(お知らせ)	PR業実態調査ニュースリリースを配信しました	— 7
〃	「広報・PRスキルアップ実践講座」第1回を開講	— 8
〃	夏の「PRプランナー1次試験対策講座」を開講	— 9
	1次試験受験申込受付中！＜再掲＞	— 10
BULLETIN(活動報告)	第24回PRプランナー資格認定検定試験 2次試験を5月12日に実施	— 12
〃	『2019 PR Yearbook』発刊	— 14
〃	2019年度 第1回「なでしこカウンスル」開催報告	— 15
〃	第20回「企業部会フォーラム」開催報告(会員限定)	— 18
REPORT(講演レポート)	第199回定例研究会「放送新時代に向けたNHKの経済報道 ～激変するメディア環境におけるこれからの報道番組作り～」(正会員・個人会員限定)	— 19
関西の風	世界へ広がるクレパス！その歴史とは	— 20
協会掲載記事	PRSJ in Media	— 22

6月～7月スケジュール

広報・PR実務講座 2019 PRプランナー3 次試験対応講座

日 時 : 6月5日(水)、12日(水)、19日(水)、26日(水)
7月3日(水)、10日(水) いずれも 19:00～21:30
会 場 : コンベンションルームAP虎ノ門

第 201 回定例研究会

日 時 : 6月19日(水) 12:00～14:00
会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
講 師 : スマートニュースメディア研究所所長 瀬尾 傑氏
テーマ : 混沌とするメディア環境とこれからのニュースメディア
～「インターネットメディア協会」代表理事 瀬尾 傑氏に訊く～

第 22 回広報活動研究会

日 時 : 6月26日(水) 15:30～
会 場 : 三菱みなとみらい技術館 訪問

広報・PR実務講座 2019 広報・PRスキルアップ実践講座第 1 回 (クライシス・コミュニケーション)

日 時 : 7月11日(木) 13:30～17:30
会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
講 師 : ゼウス・コンサルティング(株) 代表取締役社長 白井邦芳氏
テーマ : 緊急事態におけるメディア対応の要諦～クライシス・コミュニケーション
の基本と緊急記者会見～

広報・PR実務講座 2019 PRプランナー1 次試験対応講座

日 時 : 7月16日(火)、23日(火)、29日(月)、8月6日(火)
いずれも 19:00～21:30
会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49

6月～7月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会	(6 月度)	日 時	:	6 月 13 日 (木)	16:00～17:30
	(7 月度)	日 時	:	7 月 11 日 (木)	16:00～17:30
		会 場	:	一般財団法人 産業人材研修センター 霞会館	
教育委員会	(6 月度)	日 時	:	6 月 25 日 (火)	12:30～14:00
		会 場	:	協会会議室	
資格委員会	(6 月度)	日 時	:	6 月 27 日 (木)	12:00～13:30
		会 場	:	協会会議室	
国際・交流委員会	(6 月度)	日 時	:	6 月 17 日 (月)	16:30～18:00
		会 場	:	協会会議室	
広報委員会	(6 月度)	日 時	:	6 月 27 日 (木)	16:00～17:30
		会 場	:	協会会議室	
顕彰委員会	(6 月度)	日 時	:	6 月 26 日 (水)	12:00～13:30
		会 場	:	協会会議室	
企業部会幹事会	(6 月度)	日 時	:	6 月 5 日 (水)	17:00～18:30
		会 場	:	協会会議室	
PR業部会幹事会	(6 月度)	日 時	:	6 月 18 日 (火)	16:00～17:30
		会 場	:	協会会議室	

人生で大切な事の半分は、マガジン＝雑誌から学んだ。

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
副理事長 大石哲也

マガジン好きというか、フェチ＝オタクかも知れない。小学校の頃より少年サンデー、マガジン、キング、ボーイズライフ、子供の科学はもちろん、3つ年上の兄の影響か、平凡パンチ、ポケット OH!まで年よりマセた雑誌を読み込んでいた。読むのではなく、本屋さんが届ける日が待ち遠しく読み込んだのだ。中学に入るとそれらに、メンズクラブ、週刊プレイボーイ、新譜ジャーナルが加わった。高校に入ると更に加速して、兄の読む話しの特集、SFマガジン、ミュージックライフが加わり、大学に入ると、創刊号収集が始まる。

平凡出版（マガジンハウス）のポパイ創刊号、(ホップなアイ) 前身のUSAカタログの編集室は六本木だった。ある処から帰りある事のある連中とやっていたので(注1)、このポパイには何度も取材された。高平哲郎責任編集の宝島（その前身はワンダーランド）で植草甚一と出会いコーヒーの豆まで改めた。テディ片岡と言う名の作家から缶ビール&ピンボールに染まり、浜野安宏思想を頭から浴びる、ネイチャー&ヒッピーカルチャーの時代、ローリングストーン、ビックリハウス、いんなあととりつぶ、徳大寺有恒が編集していたチェックメイト、先輩が編集していたサーフィンワールドでは親友がカメラマン修行していた。北米版サーフィン誌の付随ハガキで商品が届く嬉しさも知った。

ポパイのライバル誌となるホットドックプレスには、いとうせいこうがいた。木滑文化から石川次郎編集長が生んだブルータス創刊号より100冊は、まだ押し入れに眠る。PR会社に勤める事になってからは、業務もからむを理由に更なる乱読へ。赤星編集のギャルズライフには、おかしなコーナーがあり何度も出演した。仕事で会える環境を良しとして、編集部の子達とは、公私の仲になり、社会人として、男の子として、昼も夜も深夜も学ぶ事となった。

週刊プレイボーイY氏より、ジェントルマンの基本はロッド&ガンと言われ、高井戸警察で散弾銃の講習を受けた。月刊プレイボーイM氏とは、第2回パリダカ現地長期取材を目論みクライアントを巻き込む企画書を書いては持ち込んだ。なぜかアンアン誌上で、M石油のタイアップを組み、T康夫氏に原稿を書いて頂いた。何せ新型車のPR誌に、一切クルマを出さない!のコンセプトが通る時代でもあったのだ。

NAVI創刊号はクルマ文化論誌だった。編集部員とその時、その時の面白き企画をたて、取材費を捻出する為に、クライアントを廻る役目は、PR会社ディレクターとしては楽しかったが、営業職でありながら、ロケでほとんど会社に行かない日々もあり、今想っても危うい。

テレビ番組も同様なスキームで、ほぼ毎月ロケに出ていた。テレビ東京の名物番組<青春日本列島>ドキュメントのロケで2週間も各地を廻り、釣り番組ではアメリカ商務省観光局をバックにテニアン諸島取材で一ヶ月洋上。今コンプライアンスとメディアのあり方では、ほぼNGな事ばかりだが、FACTとその時その時の今性を考えるエディトリアル感性が、時代を映す鏡としてのマガジンの本性だと思う。仕事か遊びか境界線のないPRマンライフを送っていたが、会社を興してから更に更に加速した。ある編集長とある月刊誌を立ち上げた(注2)。PR会社として逸脱した行為なのだが(私は逸脱が大好きな様で)そして手痛い失敗となった。

今 2019 年 5 月読み込み雑誌は、右系も左系も存分で、Will、Hanada、潮、正論、世界、創、現代思想、文春、新潮、AERA、Number、Daytona、ENGINE、東京人、GQ、Forbes、パーゴルフ、ゴルダイ、Choice、CG、Mr.Bike BG、ソトコト、dancyu、KAZI、本の雑誌、Newton、Fly Fisher、ブレーン、おっと最後に銀座百景も。紙媒体として、これらを読み込み、Web 版もながめる。もちろんPR会社として社内どころがる各雑誌も全てながめる。そう活字中毒プラスオタクだったのだ。これらに年間60冊を義務とする単行本も加わる。人生の半分以上を過ぎた今、(多分)残りの半分の大切な事を学ぶとすれば、いったい何歳まで生きれば良いのだろうか？老眼鏡を置いてフト考える。

東京タワー麓の庵より

(注 1)、(注 2) を更に読み込む場合、お申込みのうえ有料となります。

第8回「通常総会」・「懇親パーティ」を開催しました

第8回通常総会が、6月6日(木)午後5時から、東京都港区六本木の公益財団法人国際文化会館「岩崎小彌太記念ホール」において開催されました。

平成30年度3月末の議決権数は法人正会員263名、個人正会員A104名、個人正会員B28名、計395名で、出席者41名、議決権行使書提出者198名、合計239名。定足数の198名を超え、総会は成立し、開会いたしました。

最終的な総会出席者は55名でした。

総会では、次の2つの議案の審議と2つの報告が行われ、議案事項は全て承認されました。

【議案審議】

- 第1号議案 平成30年度事業報告承認の件
- 第2号議案 平成30年度収支決算報告
並びに監査報告承認の件

【報告事項】

- 第1号報告 平成31年度(令和元年度)事業計画について
- 第2号報告 平成31年度(令和元年度)収支予算について



午後 6 時から、同階「樺山・松本ルーム」において懇親パーティが行われました。こちらも 123 名（招待者含む）の参加者を迎え、大変な盛況でした。



パーティ席上では、新執行部紹介が行われ、会場のいたるところで P R パーソン同士の話がはずむ中、盛況の内に閉会しました。

会員の皆様、関係者の皆様、またご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げますとともに、今年度も何卒よろしくお願い申し上げます。



なお、総会に先がけて開催した P R 業実態調査については今月号協会ニュースの 7 ページをご覧ください。P R 活動ガイドラインにつきましては、6 月中旬以降に発表となります。

PR業実態調査ニュースリリースを配信しました PR業売上高（2018年度）は推計1,290億円 前回（2016年度）に比べて27ポイントの伸び

PRSJでは通算7回目となるPR業実態調査を実施し、下記の内容でニュースリリースを配信いたしました。

本調査は、PR業とPR関連業の当協会会員社（180社）および非会員社（22社）の合計202社を対象に行われ（有効回収率は35.1%）、PR業各社の業務傾向などからPR業界の最新の潮流を探るとともに、PR業全体の売上規模を推計（※1）いたしました。

PR業界全体の売上高（2018年度）は推計で1,290億円となり、前回調査（※2）の約1,016億円を大きく上回る結果となりました。前回から約273億円、約27ポイント伸びており、PR市場が拡大傾向にあることを示しています。多様化するメディア環境を背景に、企業・団体において広報・PR活動の重要性に対する認識一層高まっていることがうかがえます。

※1 回答が得られた各社の売上高合計を基に、PR業各社の従業員数（中央値）などを勘案してPR業全体の売上高を推計しています。

※2 調査実施：2017年、対象期：2016年度

<PR業実態調査の概要>

- 調査対象 : 公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会の会員企業180社
非会員企業22社、計202社
- 調査方法 : 郵送法
- 回収率 : 35.1%
- 調査実施時期 : 2019年 1月～2月
- 調査実施機関 : 株式会社ハミングバード

PR業実態調査 ニュースリリース全文

https://prsj.or.jp/wp-content/uploads/2019/05/PRSJ_2019.pdf

PR業実態調査 報告書

<https://prsj.or.jp/wp-content/uploads/2019/05/PRSJresearch2019.pdf>

■本件に関するお問い合わせ先

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会 事務局

福家・渡邊 TEL: 03-5413-6760 / e-mail: mail@prsj.or.jp

広報・PR実務講座 2019

緊急事態におけるメディア対応の要諦 ～「広報・PRスキルアップ実践講座」第1回を開講～

教 育 委 員 会

協会では、7月11日、六本木アカデミーヒルズ49で、「広報・PRスキルアップ実践講座」第1回として、クライシス・コミュニケーションをテーマとする「緊急事態におけるメディア対応の要諦～クライシス・コミュニケーションの基本と緊急記者会見～」を開講します。



死傷者をともなう自社施設の突発事故…。ネットから突然流れる自社役員の不祥事報道…。望むと望まぬにもかかわらず予期せぬ事態の発生時、鳴りやまぬ電話と相次ぐマスコミの問い合わせに翻弄され、広報部門は緊張と混乱の極みに突き落とされます。会社が社会からの厳しい視線と批判に晒されるその時、広報部門はひるむことなく事態に対して果敢に立ち向かわねばなりません。広報担当者は、いかなる心構えのもとに、どのように事態に対処すべきでしょうか？

事態発生の一報が飛び込んだ瞬間から、広報部門には事実の的確な把握と冷静な分析、対応に向けた方針と迅速な行動が求められます。十分な情報のない危機的状況における初動を適切に進めるには、クライシスを想定した心構え、危機対応マニュアルなど平時からの備えとともに、シミュレーションを通じたトレーニングが重要です。緊急時における同様と混乱の最小化には、クライシス・コミュニケーションの基本について、平時から確実に身に付けておくことが不可欠となります。



本講座では、クライシス・コミュニケーションのコンサルティングに豊富な経験と実績をお持ちの白井邦芳氏（ゼウス・コンサルティング（株） 代表取締役社長）を講師にお招きし、緊急事態の発生に際する心構えや日常的な備え、対応方針の作成や実行に関するポイントなど広報部門に求められるクライシス・コミュニケーションの基本を学びます。

また、社会部記者をはじめとしたメディア対応における重要施策となる緊急記者会見の実施を想定、準備の手順やコメントの作成、開催に向けた諸注意など緊急記者会見について理解を深め、シミュレーション・トレーニングを通じて講座のポイントを確実に体得します。

初動から緊急記者会見の開催にわたるクライシス・コミュニケーションの要諦について、講義と演習を通じて習得する本講座。広報・PRにかかわる多くの方のご参加をお待ちします。

本講座の詳細ならびに申込みについては、下記URLの協会Webサイトをご参照ください。

<https://event.prsj.or.jp/practical-course2019/skillup-crisis>

（事務局 真部）

広報・PR実務講座 2019

夏の「PRプランナー 1次試験対策講座」を開講

「PRプランナー試験」新体系に準拠する初めての試験対策講座

教 育 委 員 会

協会は、「PRプランナー1次試験」の受験者を主な対象とする「PRプランナー1次試験対策講座」を7月16日から4回にわたり開講いたします。

「PRプランナー1次試験」は、2019年8月実施の第25回試験から改訂された新体系に基づき実施されます。今回の「PRプランナー1次試験対策講座」は、新体系に準拠する講座として初めての開講となります。

「PRプランナー1次試験」は、広報・PRに関する基本的な知識を50問の問題で検定する試験であり、合格のためには広報・PRにかかわる広範な知識の習得と試験分野についての系統的な理解が必要となります。本講座では、広報・PRに豊富な実務経験を有するとともに、専門的な知識を備え自らもPRプランナー資格を取得したベテラン講師が試験分野を平易に解説、これにより受講者は合格に必要な知識を効率的に習得することができます。また、「PRプランナー1次試験」の概要や試験のポイントについて理解を深めることができ、効果的な受験対策を行うことが可能となります。



なお、会場受講への出席が難しい皆様を対象に、ネットの活用により受講を可能としたWeb受講サービスを提供いたします。遠隔地に居住の方、業務でご多忙な方もWeb受講により、時と場所を選ばずご自身の都合にあわせて講座を受講し、受験準備を進めることができます。

講座の詳細ならびに受講申込みは協会Webサイト「セミナー/イベント」の「PRプランナー1次試験対策講座（2019年度夏期）」ページ（下記URL）をご参照ください。

<https://event.prsj.or.jp/prp/1st-2019summer>

■PRプランナー1次試験対策講座（夏期）の概要

日 程	講 座 内 容	講 師	受講料	申込締切
7月16日(火) 19:00～21:30	・ 広報・PRの基本 ・ 企業経営と広報・PR ・ 広報・PR活動のマネジメント	株式会社井之上 パブリックリレーションズ 戦略企画部部長 横田和明氏	会場受講＋ Web 受講 一般 32,400 円 学生 19,440 円 協会会員社員 21,600 円	会場受講＋ Web 受講 7月12日 (金)まで
7月23日(火) 19:00～21:30	・ コミュニケーションの基礎理論 ・ マーケティングの基礎理論 ・ マーケティングと広報・PR ・ ブランドの基礎理論			
7月29日(月) 19:00～21:30	・ メディアリレーションズ ・ IR(インベスターリレーションズ) ・ インターナル・コミュニケーション	株式会社エイレックス 危機管理広報 コンサルティング部 長／シニアトレーナー 畑山 純 氏	Web 受講のみ 一般 21,600 円 学生 19,440 円 協会会員社員 21,600 円	Web 受講 講座開講後も 8月19日 (月)まで受付 けます
8月6日(火) 19:00～21:30	・ 危機管理広報 ・ グローバル広報 ・ CSR(企業の社会的責任) ・ 行政・団体等の広報・PR			

※協会会員社員の受講料は、日本パブリックリレーションズ協会に正会員としてご入会いただいている企業・団体にお勤めの方、もしくは個人会員・准会員としてご入会いただいている方が対象となります。

(事務局・真部)

PRプランナー資格認定制度／検定試験

第 25 回「PRプランナー資格認定検定試験」 1 次試験受験申込受付中！

－ 試験項目は、新・試験体系。対応テキストは『広報・PR概説』 －

資 格 委 員 会

第 25 回となる PR プランナー資格認定検定試験 1 次試験（実施：2019 年 8 月 25 日（日））を、東京・大阪、名古屋・札幌の 4 会場で実施します。

日本パブリックリレーションズ協会が認定する「PRプランナー資格認定制度」は、広報・PR の業務に求められる専門的な知識やスキル、職能意識等を検定し資格として認定する、公益法人としてわが国唯一の資格制度です。検定試験は 1 次から 3 次にわたり、さらに書類審査を経て、広報・PR に関する高い専門能力の保有を認定する「PRプランナー」資格を取得することができます。本制度は 2007 年より発足しすでに 23 回の試験を実施、難関を突破し資格を取得した 2,657 名（5 月 13 日現在）の PR プランナーが一般企業、PR 会社、政府機関や自治体等で活躍しています。

今回の試験から 2018 年 10 月に発表された新・試験体系となり、対応する 1 次試験公式テキストは『広報・PR 概説』となります。

受験申込期間は、7 月 19 日（金）までとなっておりますので、皆様のまわりに PR プランナー資格の取得を目指される方がいらっしゃいましたら、本試験についてご紹介ならびにご推奨を賜れば幸いに存じます。

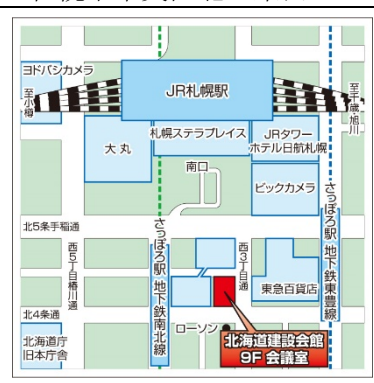
<PRプランナー資格認定制度／検定制度 1 次試験 実施概要>

試 験 日	2019 年 8 月 25 日（日） 試験は東京・大阪・名古屋・札幌会場ともに 8 月 25 日（日）午前中に同時実施・終了する予定です。
受 験 申 込 期 間	2019 年 6 月 1 日（土）～2019 年 7 月 19 日（金）
受 験 申 込 方 法	受験申込から合否通知までの手順は次の通りとなります。 ※前回（第 24 回）と同様に、受験申込は完全にペーパーレス化となり、「PRプランナー資格制度」Web サイトからお申込となります。 <受験申込手順> ①受験種別と受験料をご確認ください ②受験料をお振込みください ③画像データをご用意ください ④PRプランナー資格制度 Web サイトにアクセスします ⑤受験申込フォームに入力 入力内容：氏名、受験種別、試験会場、受験票・合否発送先住所、生年月日、メールアドレス、受験料の振込日と振込人名、等 アップロード内容：受験者ご本人の写真データ ⑤入力確認画面を経て、受験申込完了
受 験 票 送 付	2019 年 8 月 9 日（金）発送
合 否 通 知 送 付	2019 年 9 月 6 日（金）発送 ・受験申込書にご記入いただいたご住所に、合否通知を発送いたします。 ・合格された方には、2 次試験ならびに PR プランナー補認定申請のご案内を、メールでも 9 月 9 日（月）にお送りします。

<試験時間>

0 9 時 3 0 分	各試験会場に入館できます
1 0 時 2 0 分	指定の教室・座席にご着席ください
1 0 時 2 5 分	注意事項伝達・試験問題配布
1 0 時 4 0 分	試験開始
1 2 時 0 0 分	試験終了

<試験会場>

東京会場 東洋学園大学 本郷キャンパス 文京区本郷 1-26-3	大阪会場 毎日インテシオ 大阪市北区梅田 3-4-5
	
・ J R線、都営三田線「水道橋駅」徒歩 7 分 ・ 丸ノ内線、都営大江戸線「本郷三丁目駅」徒歩 4 分	・ J R大阪駅から西梅田地下歩行者道を通り、徒歩約 15 分
名古屋会場 AP名古屋 名古屋市中村区名駅 4-10-25	札幌会場 北海道建設会館 札幌市中央区北 4 条西 3-1
	
・ 「名古屋駅」徒歩約 5 分	・ 地下鉄さっぽろ駅 12 番出口（西武）13 番出口（東急）徒歩 3 分

※資格検定試験の詳細は、下記URLのPRプランナー資格 Web サイトをご覧ください。

<https://pr-shikaku.prsj.or.jp/>



PRプランナー資格認定制度／検定試験**第 24 回PRプランナー資格認定検定試験
2 次試験を 5 月 12 日に実施
東京・大阪・福岡で、257 名の受験者が挑戦！****資 格 委 員 会**

5 月 11 日（日）、第 24 回 P R プランナー資格検定 2 次試験が東京（東京富士大学）、大阪（毎日インテシオ）、福岡（AQUA 博多）で行われました。今回の 2 次試験では、東京会場 242 名、大阪会場 34 名、福岡会場 14 名の合計 289 名が受験申込をされ、当日は 257 名（東京会場 216 名、大阪会場 29 名、福岡会場 12 名）の受験者が受験し、そのうち 230 名（東京会場 195 名、大阪会場 27 名、福岡会場 8 名）が合格されました。今回の 2 次試験の合格率は 86.4%となりました。

今回も無事終了することができました。ご協力いただきました関係者の皆様には、厚くお礼申し上げます。

なお、今回の 2 次試験の受験者および合格者・合格率は以下の通りです。

< 第 24 回 科目別 正答率 65%以上 >

科目 A：C S R、I R、危機管理等、企業経営とコミュニケーションに関する知識

受験者 257 名、正答率 65%以上 246 名、達成率 95.7%

科目 B：マーケティング、ブランドマネジメントに関する知識

受験者 257 名、正答率 65%以上 219 名、達成率 85.2%

科目 C：広報・P R 実務に関する知識

受験者 257 名、正答率 65%以上 227 名、達成率 88.3%

科目 D：時事知識

受験者 257 名、正答率 65%以上 158 名、達成率 61.5%

< 第 24 回 2 次試験合格率 >

受験者 257 名、合格者 230 名、合格率 89.5%

※上記「科目別 正答率 65%以上」の人数は、2 次試験合格基準となる「出題数に対して正答率 65%以上」を満たした人数となり、達成率は、全体での割合として記載しております。



東京会場：東京富士大学

■第24回2次試験(2019年5月12日) 合格率・受験者プロフィール

		PR業/ PR関連業	一般企業 (広報PR関連)	一般企業 (その他)	各種団体	教育機関	自治体	学 生	その他	全 体
男性	受験者	35 名	40 名	15 名	6 名	3 名	11 名	5 名	7 名	122 名
	合格者	29 名	38 名	13 名	6 名	3 名	11 名	4 名	7 名	111 名
女性	受験者	29 名	65 名	13 名	8 名	2 名	1 名	5 名	12 名	135 名
	合格者	24 名	58 名	11 名	8 名	2 名	1 名	4 名	11 名	119 名
全体	受験者 (全体比)	64 名 (24.9%)	105 名 (40.9%)	28 名 (10.9%)	14 名 (5.4%)	5 名 (1.9%)	12 名 (4.7%)	10 名 (3.9%)	19 名 (7.4%)	257 名 (100.0%)
	合格者 (全体比)	53 名 (23.0%)	105 名 (41.7%)	24 名 (10.4%)	14 名 (6.1%)	5 名 (2.2%)	12 名 (5.2%)	8 名 (3.5%)	18 名 (7.8%)	230 名 (100.0%)
	合格率	82.8%	91.4%	85.7%	100.0%	100.0%	100.0%	80.0%	94.7%	89.5%

		20 代	30 代	40 代以上	全体
男性	受験者	36 名	40 名	46 名	122 名
	合格者	33 名	35 名	43 名	111 名
女性	受験者	50 名	53 名	32 名	135 名
	合格者	40 名	52 名	27 名	119 名
全体	受験者 (全体比)	86 名 (33.5%)	93 名 (36.2%)	78 名 (30.4%)	257 名 (100.0%)
	合格者 (全体比)	73 名 (31.7%)	87 名 (37.8%)	70 名 (30.4%)	230 名 (100.0%)
	合格率	84.9%	93.5%	89.7%	89.5%

受験者	合格者	合格率
257 名	230 名	89.5 %

■2次試験累計(第1回～第24回) 合格率・受験者プロフィール

		PR業/ PR関連業	一般企業 (広報PR関連)	一般企業 (その他)	各種団体	教育機関	自治体	学 生	その他	全 体
男性	受験者	970 名	1022 名	297 名	57 名	73 名	96 名	137 名	175 名	2827 名
	合格者	769 名	863 名	235 名	49 名	64 名	81 名	78 名	144 名	2286 名
女性	受験者	727 名	1334 名	256 名	60 名	57 名	50 名	150 名	230 名	2864 名
	合格者	519 名	997 名	188 名	43 名	47 名	41 名	73 名	168 名	2076 名
全体	受験者 (全体比)	1697 名 (29.8%)	2356 名 (41.4%)	553 名 (9.7%)	117 名 (2.1%)	130 名 (2.3%)	146 名 (2.6%)	278 名 (5.0%)	405 名 (7.1%)	5691 名 (100.0%)
	合格者 (全体比)	1288 名 (29.5%)	1860 名 (42.6%)	423 名 (9.7%)	92 名 (2.1%)	111 名 (2.5%)	122 名 (2.8%)	151 名 (3.5%)	315 名 (7.2%)	4362 名 (100.0%)
	合格率	75.9%	78.9%	76.5%	78.6%	85.4%	83.6%	52.6%	77.8%	76.6%

		20 代	30 代	40 代以上	全体
男性	受験者	757 名	1181 名	889 名	2827 名
	合格者	554 名	965 名	767 名	2286 名
女性	受験者	1061 名	1243 名	560 名	2864 名
	合格者	706 名	938 名	432 名	2076 名
全体	受験者 (全体比)	1818 名 (31.9%)	2424 名 (42.6%)	1449 名 (25.5%)	5691 名 (100.0%)
	合格者 (全体比)	1260 名 (28.9%)	1903 名 (43.6%)	1199 名 (27.5%)	4362 名 (100.0%)
	合格率	69.3%	78.5%	82.7%	76.6%

受験者	合格者	合格率
5,691 名	4,362 名	76.6 %

『2019 PR Yearbook』発刊 ～ 巻頭特集 「今、人を活かすPRへ。」～

広報委員会

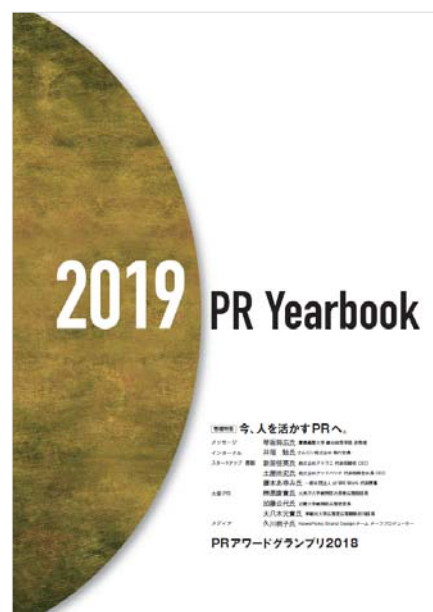
協会では、パブリックリレーションズの社会的認知を高めるとともに、日本における広報・PR活動の質的向上を図ることを目的に、これまで10号の年鑑を発行してきました。

2019年度版の第11号では、巻頭特集として「今、人を活かすPRへ。」というキーワードで、これからのパブリックリレーションズの可能性についてさまざまな視点から識者のみなさまに語っていただきました。

主な内容

● 「今、人を活かすPRへ。」(巻頭特集)

- ・メッセージ「PRコミュニケーションの主語が変わり、PRパーソンはファシリテーターへと転換する。」慶應義塾大学 総合政策学部 准教授 琴坂将広氏
- ・インターナル「井垣流PRメゾッドを学ぶ。」オムロン(株) 執行役員 グローバルインベスター&ブランドコミュニケーション本部長 井垣 勉氏
- ・スタートアップ「キャリアよりロイヤリティが、PRの熱量を内外に生むんだと思う。」鼎談(株)アトラエ 代表取締役 CEO 新居佳英氏／(株)グッドバッチ 代表取締役 CEO 土屋尚史氏／(一社)at Will Work 代表理事、Plug and Play Japan(株) 藤本あゆみ氏
- ・大学PR「人が人をつくる現場をレポートする。」東洋大学 総務部次長兼広報課課長 柏原康貴氏／近畿大学 総務部広報室室長 加藤公代氏／早稲田大学 広報室広報戦略担当課長 大八木元貴氏
- ・メディア「人に光を与える、人をつなげる、それがメディアの大きな仕事になってきています。」NewsPicks Brand Design チーム チーフプロデューサー 久川桃子氏



● 新たな戦略とアイデアを探るPRアワードグランプリ2018

- ・審査委員長コメント (株)博報堂ケトル 代表取締役社長 嶋浩一郎氏
- ・PRアワードグランプリ2018 グランプリのほか、ゴールド、シルバー、ブロンズの受賞事例を紹介しています。

● 日本PR大賞

- ・「日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」受賞者の渡辺直美氏(お笑い芸人)、「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」受賞者の気まぐれ八百屋 だんだんワンコインこども食堂の受賞コメントなどを紹介しています。

● 2018年度 協会活動

2019 年度 第1 回「なでしこカウンスル」開催報告

「逆境の中でもこんなに改革できる」

BUSINESS INSIDER JAPAN 統括編集長／前 AERA 編集長 浜田敬子氏

国際・交流委員会

2019 年度初めてのなでしこカウンスル（女性広報勉強会）が 5 月 22 日に開催されました。今回の講師は Business Insider Japan 統括編集長／前 AERA 編集長の浜田敬子さん。AERA 時代に行った誌面リニューアルや、現在の職場で挑戦中の働き方について、講演していただきました。会場となった明治神宮前の一軒家レストラン「ラ・ブーレット」には 46 名もの広報・PR に携わる女性が集まり、活気あふれる会になりました。



☆☆☆☆☆

1989 年に朝日新聞社に入社し、99 年から AERA 編集部に所属。2014 年に編集長に就任した。出版市場が縮小し、AERA も部数を減らし続ける中、会社から要求されたのは「コストカット」だった。人員数や原稿料を減らすくらいならと、創刊以来続けてきた電車の中吊り広告の廃止を決断せざるを得ず、どうすれば読まれる雑誌を作れるのか模索することになる。

まず行ったのが、「大特集主義」への転換。これまでの AERA は、様々なニュースを手広く掲載する「幕の内弁当」方式の週刊誌だったが、1 号ごとに「受験」や「不動産」、「結婚」といった一つのテーマを掘り下げる雑誌に変えたのだ。社内からは「毎週部数が安定しない」と反発を浴びることもあったが、書籍の仕事で関わった秋元康氏が話した「記憶に残る幕の内弁当ってある？」という一言に背中を押された。AERA 編集部の 1/3 がワーキングマザーだったことも決断を後押しした。昼夜を問わない対応が求められるストレートニュースの取材より、労働時間をコントロールできる深掘り取材の方が、彼女たちの力を活かせると思った。

2014 年には著名人を編集長に据えた「特別編集長号」を発刊した。第一弾には秋元康氏を招聘。手を挙げてくれた部下とともに、毎週、編集会議を行った。秋元氏が「いま、一番面白い」と太鼓判を押すリリー・フランキー氏のページを設けることになったが、定番の企画ではつまらない……。皆で知恵を絞り、できた誌面は「編集部員のセックス相談」。これは大変な話題になった。

売上も好調で、特別編集長号はスタジオジブリの鈴木敏夫氏や作家の佐藤優氏を招いて続くことになった。

結局、販売部数の推移は漸減のままで、これまでと変わることはなかった。しかし、多くの書店が AERA のバックナンバーを取り置いてくれるようになり、AERA のフェアを開催してくれる店舗も現れた。週刊誌でありながら、長く読まれる本を作ることができた。また、本体である朝日新聞社の不祥事で広告主が引き上げてしまった際にも、「AERA は面白いことをやってくれそうだから」と大口の広告コンペを紹介してくれる編集者が現れ、無事案件を獲得できたこともあった。何より、一緒に働いていた編集部員たちに良い経験を積ませ、何かを残すことができたと感じている。

☆☆☆☆☆☆

編集長退任後は燃え尽き症候群気味になり、「早く定年退職したいなあ」と思っていたが、『LIFE SHIFT』著者のリンダ・グラットン氏の考えを聞くなどして「人生 100 年時代、AERA の遺産だけでは 75 歳まで働き続けることができないかも」と考え直すに至った。ついに 2017 年 4 月、50 歳を目前にして朝日新聞社を飛び出す決心をした。先輩たちから「メディアに関わるなら一度は経験するべき」と言われてきた、新しいメディアの立ち上げに携わるようになった。

新天地は、「Business Insider Japan」(<https://www.businessinsider.jp/>、以下 BI)。ミレニアル世代を対象にした米国発の経済ウェブメディアで、その日本版の統括編集長に就いた。様々なバックグラウンドを持つ編集部員たちと、きちんと若い世代に届き、かつ質の高い記事を作るべく、試行錯誤している。

ミレニアル世代は特に、自分たちの周囲で起きたことだけに関心を持つ傾向があると感じている。しかし、経済の大きな動きは、誰の生活にも影響を及ぼす。BI では、これまでのメディアではリーチできなかった彼らに届くように、ニュースを伝えようとしている。例えば CEO のインタビュー。細かいことだが、写真を撮る際に腕組みではなく、出来るだけにこやかな表情で読者に語りかけるようなポーズで撮るようにしている。また、Yahoo!ニュースや LINE NEWS に記事を配信しているが、媒体の特性を考え、それぞれ見出しを変えている。編集部員たちが日々の悩みや考えごとを自由に書き込んでいる Slack に時事性があると考えて、文面をそのまま記事にしてみたら、大反響を呼んだこともあった。もちろん、かわいい猫の動画を上げれば PV 数は伸びる！しかし、そういった柔らかいネタに頼ることなく、読者を増やし、サイトを大きくしてこられた。

読者を巻き込んだ取り組みも始めている。現在は、GW 明けから 1 ヶ月間、長崎県・五島列島でリモートワークの実証実験をしている最中だ。東京で暮らして働く日々の中で、思考が浅くなりつつあることを感じていたことから企画が始まり、実現することになった。募集に応じた読者と一部の編集部員とが五島市の全面協力のもと、それぞれリモートで仕事をしている。

先週末には、中国の深センでファーウェイ・任正非 CEO の日本メディア向け取材会に参加し、朝日新聞や日本経済新聞といった他の大手メディアと共同インタビューを行った（折しもアメリカのトランプ政権が同社への輸出規制を表明した翌日の取材となり、BI の記事は注目を浴びることとなった）。創刊から 2 年でここに呼ばれるメディアに成長できたことを、嬉しく思っている。

☆☆☆☆☆☆

とても 45 分間とは思えない内容の詰まったお話を聞いたあとは、豪華なコース料理をいただきながら、それぞれのテーブルで懇談に花が咲きました。

プライベートでは中学生のお嬢さんを育てる母親でもある浜田さん。閉会直前に、子育て事情を少しだけ伺いました。休日出勤の日の夕食にコロッケをリクエストされ、買ったお惣菜で済ませようとしたら、『それくらい作ればいいのに』と夫から言われ小競り合いが勃発した」という「コロッケ事件」のエピソードには、会場中が「コロッケの手作りは簡単じゃない!」と一致団結。その日一番の盛り上がりになりました（「結局コロッケは夫が手作りしました」とのことでした）。

レポート：内山 菜生子（㈱内外切抜通信社）



◎国際交流委員会

司会：杉山 順子（㈱スヴェンソン）

幹事：中山 智恵（㈱オプト）・山本 有里恵（AOI TYO Holdings㈱）・脇山 亜希子（寺田倉庫㈱）・

渡辺 裕子（農林水産省）・市瀬 朱実（ALLISON+PARTNERS㈱）

石田 奈緒子（㈱東京個別指導学院）・河原 有希子（㈱内外切抜通信社）

会 員 限 定

第 20 回「企業部会フォーラム」開催報告

「20 代から 50 代まで、働く女性向け世代別 Web メディア 日経 xwoman プロジェクト」

企 業 部 会

2019 年 4 月 16 日（火）17：00 からパナソニック株式会社東京汐留ビルにおいて、第 20 回「企業部会フォーラム」が開催されました。

今回のフォーラムでは、このたび日経 BP 社が立ち上げた、全世代の働く女性をカバーする新しい試み「日経 xwoman（クロスウーマン）プロジェクト」を取り上げました。国内における女性の就業率が過去最高を記録する中、20 代から 50 代までの働く女性を対象とするビッグプロジェクトに関するお話をうかがえる機会ということもあり、定員を超える 34 名の方が参加されました。

講師には、日経 BP 社より羽生祥子日経 xwoman 総編集長・日経 ARIA 編集長、平田昌信プロジェクトマネージャー、鈴木陽子 doors 編集長をお招きし、立ち上げの経緯やプロジェクトの内容、今後の試みなどについてご講演をいただきました。

また会場は、大きな円卓を有する東京汐留ビル 24 階のデシジョンルームをお借りしました。日頃、会社の意思決定などにも使われている会議室とのことで、ほど良い緊張感が漂う中でのフォーラム開始となりました。



会 員 限 定**第199回定例研究会****放送新時代に向けたNHKの経済報道**
～激変するメディア環境におけるこれからの報道番組作り～**講師:NHK 報道局 経済部長**
小椋並樹氏

第199回定例研究会（4月度）は、4月19日（金）、コンベンションルーム AP虎ノ門で開催しました。講師はNHK 報道局経済部長 小椋並樹氏。テーマは「放送新時代に向けたNHKの経済報道～激変するメディア環境におけるこれからの報道番組作り～」。当日の参加者は76名でした。



<コラム関西の風>

世界へ広がるクレパス！その歴史とは

株式会社サクラクレパス
営業本部マーケティング部
広報 井上さゆり

株式会社サクラクレパス(以下：サクラクレパス)は、1921年(大正11年)に創業、2021年に100周年を迎える会社です。代表的な商品には、1925年発売の「クレパス」、絵の具の「マット水彩」(1950年)、名前書きペン「マイネーム」(1969年)、そして「クーピーペンシル」(1973年)といったものがあります。ここでは、そんなサクラクレパスという会社のはじまりとも言える「クレパス」についてご紹介をしたいと思います。



■明治・大正時代の図画教育画材

大正時代、子どもたちは小学校の図画の時間に、低学年は色鉛筆で、高学年になると水彩絵の具で彩色をしていました。しかし、それらはほんのりと色が着く程度 of 色彩の乏しいものでした。当時の色鉛筆は、粗悪で折れやすく色数も少ない、そして硬くて画用紙への色着きが悪いものばかりで、水彩絵の具も同様で、色は薄づきで鮮やかさに欠けるものでした。

■クレヨンと自由画教育

当時、子どもたちの絵から精彩を欠かせていたのは、“臨画教育”という指導法によるものでありました。“臨画教育”というのは、臨本といわれる教科書を使って大人が描いた絵を手本にし、そのまま写し取るという教育でした。こうした指導法に異を唱え、臨画をやめて「自然の活きた色に目を開いて、感じたままを自由にのびのびと写生させなさい。」と提唱したのが、自由画教育の推進者であった山本鼎でした。

日本全体の文化レベルを上げなければならないという彼の信念というものは、子どもたちに自由にのびのびと絵を描かせることでしたが、そのための適切な描画材料がありませんでした。その当時、ようやくアメリカから「クレヨン」が輸入されはじめていました。「クレヨン」は削る手間もなく、色着きも鮮やかさも色鉛筆に比べて格段に良かったため、自由画にうってつけの描画材料として注目されました。しかし、舶来物の「クレヨン」は高価であったため、学校教材として使用できたのは、一部の先進的な教育を先取りする付属小学校や、革新的教育の実践者がいる私立学校などに限られていました。

■クレパスの開発

1921 年頃には、「クレヨン」を製造する業者が相次いで登場しました。サクラクレパスも同時期に「クレヨン」の製造を開始しましたが、当初の「クレヨン」は硬くて滑りやすく、色着きも悪かったため、表現にも限界がありました。

「クレヨン」と同じ棒状絵具に、「パステル」という描画材料があります。「パステル」は軟らかいので、画用紙の上で混色して色をつくることできるという長所があります。しかし、「クレヨン」のように色が紙の上に定着しないため、定着液を吹き付けるという後処理が必要となり、子どもたちにとって扱いやすいものではありませんでした。そこで、「クレヨン」と「パステル」のそれぞれの長所を兼ね備えた描画材料を開発しました。それが 1925 年に世界初の描画材料として誕生した「クレパス」です。



現在では子ども用だけでなく、プロの画家用クレパスも販売されています。世界では 60 カ国以上へ輸出され、世界中の子どもから大人まで愛用される商品となりました。

大正、昭和そして平成と有難いことに多くの方々に愛されてきた「クレパス」ですが、新しくはじまった令和の時代も「こころ」のある「色」を通じて、教育・文化に貢献し、皆さまの彩り豊かな生活に寄り添って参りたいと思います。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。



PRSJ in Media

● 5月1日（水） 『月刊広報会議』6月号

『月刊広報会議』6月号のコラムにおいて、今年度における当協会の会員制度の変更について記事掲載されました。

記事では、当協会の会員種別が、新年度を迎えた4月1日から「正会員」「個人会員」「准会員」のシンプルな構成に変更されたことを紹介しています。さらに、個人会員に広く門戸を開くことを目的とする会員制度の改訂趣旨に触れるとともに、正会員、個人会員、准会員という今回の改訂で定められたそれぞれの種別における会員の権利、入会金や年会費の金額などについて、表組で見やすく解説しています。

（事務局・真部）

〔記事協力 ㈱内外切抜通信社〕

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思っておりますので、
よろしくお願い致します。

広報委員会

Eメール mail@prsj.or.jp

F A X 03-5413-2147

※ 禁転載